

平成27年2月

# 平松哲哉 学位論文審査要旨

主 査 深 田 美 香  
副主査 片 岡 英 幸  
同 萩 野 浩

## 主論文

Effect of aging on oral and swallowing function after meal consumption

(食事摂取後に口腔および嚥下機能へ与える加齢の影響)

(著者：平松哲哉、片岡英幸、尾崎まり、萩野浩)

平成27年 Clinical Interventions in Aging 掲載予定

## 参考論文

1. 頭頸部姿勢変化に伴う嚥下時筋活動への影響

(著者：平松哲哉、荻安誠)

平成26年 米子医学雑誌 65巻 76頁～83頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は若年成人と高齢成人を対象に、舌圧測定、反復唾液嚥下テスト、単音節反復課題、表面筋電計を用いた水飲み時の舌骨上筋群の筋活動評価を食事前後に実施して、加齢および食事摂取が口腔・嚥下機能に及ぼす影響を検討したものである。その結果、最大舌圧は若年群より高齢群で低下を認めたが食事摂取の影響はなかった。食事摂取後、舌骨上筋の活動に疲労の影響は認めなかったが、高齢群で随意的唾液嚥下の惹起時間は有意に延長し、30秒間の唾液嚥下回数の低下と、口輪筋が主動筋である単音節/pa/の反復回数が低下することが判明した。本論文の内容は、高齢者で食事摂取時間を長く持続した場合の嚥下機能低下の機序を明らかとしたものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。